

一羊会だより

発行
社会福祉法人一羊会
事務局 〒663-8241
西宮市津門大塚町1-47
電話 (0798) 31-1760
FAX (0798) 31-1763



「急須と花瓶と瓶とカップとコップとほうき」

舛次 崇
(しゅうじ たかし)
1974年生まれ
すずかけ作業所

彼のモチーフは、日常品や植物、動物など。モチーフをじっと見つめてはいるが、その形をトレースしているのではなく、モチーフから受ける「感じ」を直感的に描いている。

【あとりえすずかけで2/21～3/5に開催する展覧会「すずかけの間 その2」で、彼が今までに描いた作品を展示】

100号に寄せて



一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会
会長 近藤 真由美

一羊会だより第100号…残念ながら私は第1号を知りません。長い歴史のほんの一部分しか知らない若輩者です。

つい先日、他法人の職員さんに言われたことがあります。「一羊会はすごいです。西宮で障がいのある人の支援をしっかり前を向いて進めています。それは、ちゃんと若い職員さんにも引き継がれています」

西宮での知的障がい者支援の先駆的な取り組みは、我が育成会の偉大な先輩方と共に進められてきたものであることを誇りに思います。親たちの強い思いが、周りを動かし、社会を変えてきたのですから。

社会福祉法人「一羊会」が、これからも西宮で築き上げた信頼を裏切ることなく進み続けることを、そして先達たちの熱いマインドが若い世代にもしっかり受け継がれていくことを心から願っています。

今後の一羊会への期待をさらに膨らませつつ、次の記念号を楽しみにしたいと思います。



一羊会後援会会長 太田 博

一羊会後援会の前身である一羊園福祉会は、一羊園の建設、その後の一羊園の運営を支援していく為に1976年に発足しました。

1970年10月、西宮市手をつなぐ親の会で一羊園建設運動の決議がなされ、親の会の皆さんの熱く必死な思い、それに応えた関係者、市民の皆さんのパワーが市行政を動かし7年の努力を経て一羊園開園を迎えることができました。一羊園建設に向けて活動していた頃を懐かしい思い返すと同時に創設時の大変な時期であり、それゆえ、心ひとつで取り組めたことで願いを実現することができたことは今も感慨深いものがあります。

1987年には、一羊会がすずかけ作業所の運営に取り組みだしたのを契機として法人事業全体を支援する目的で一羊園福祉会から一羊会後援会へと名称を改め、広報誌も一羊会だよりとなりました。

一羊会後援会長には元西宮市長の辰馬龍雄氏が引き続き就任して下さり、私も監事としての役割を担い、後援会活動も活発な時期でした。以降、100号発刊（一羊園だよりを入れると143号）に至るまで、一羊会は多くの事業を展開し、現在も知的にしょうがいがある人達があたりまえに暮らせる地域づくりに取り組んでおられることに敬意を表します。今後の取り組みに期待しています。



理事長 三浦 昇

新年にあたり、今年もお付き合いの程よろしくお願い致します。

さて、この度100号の発刊に際し、これまでの歴史の特集を組むことになりました。

振り返れば、1970年、親亡き後も安心して託せる施設づくり運動を当時の西宮市手をつなぐ親の会が一丸となって取り組み、多くのご支援のもと1977年5月に「一羊園」が開設されたのが一羊会事業のスタートでした。

我が事ですが、一羊園開設の翌年からは社会資源の乏しい当時の社会情勢も反映して親の会の皆さんとひたすら作業所作りに取り組んでいた頃を懐かしく思い出します。養護（特別支援）学校卒業後の進路開拓は運動の大きな柱でした。

その後、暮らしの場の必要性から、宿泊訓練ホーム、生活ホーム、平成に入って先駆的にグループホーム開設に取り組みしました。

学生時代から関わらせていただき現在も微力ながら続けられていることは自分の人生にとっての大きな宝となっています。

継続は力なりとはよく言ったものです。

ここまでの道のりは、当事者のみならず、行政をはじめ、本当に多くの皆様のご理解とご支援があればこそこの今だと感謝しております。本当にありがとうございます。

「線路は続くよどこまでも」の唄のように私たちの取り組みに終点はありません。

引き続きご理解ご支援いただきます様よろしくお願い致します。

一羊園だよりと

一羊会だより 100号までのあゆみ



「一羊会だより」が、めでたく100号を迎えました。これを記念して「一羊会だより 100号までのあゆみ」と題して特集をお送りします。一羊会だよりの歴史は、一羊会の歴史そのものです。今回改めて痛感したのは、ご家族の皆様、創成期の理事の方々や職員、行政、後援会組織をはじめとして地域の企業、団体、個人の皆様の多大な協力があって一羊会が創られてきたということです。この100号特集は、シリーズでお送りします。第1回目は「一羊会だより」の前身である「一羊園だより」(1号~43号)と「一羊会だより」1号、2号から記事を抜粋しながら、その歴史を振り返ります。ちなみに「一羊園だより」創刊号は、一羊園設立1年前の1976年1月25日に発行されました。なお、参考までに一羊会創成期の歴史を簡単にまとめておきます。

- 1963年 西宮市手をつなぐ親の会（現在の一般社団法人「西宮市手をつなぐ育成会」）発足
- 1976年 社会福祉法人一羊会設立認可 *「一羊園だより」発行開始
- 1977年 一羊園開設
- 1978年 西宮市立すずかけ共同作業所開設（西宮市手をつなぐ親の会運営）
- 1984年 すずかけ作業所と改名し、一羊会運営の通所授産施設として認可となる
- 1987年 すずかけ労働センター開設（小規模作業所） *「一羊会だより」発行開始
- 1989年 すずかけ第2作業所開設（小規模作業所として開設、翌年通所授産施設として認可される）

*本文中に登場する長久清、杉本常夫、松田修之（敬称略）及び辰馬龍雄氏の4名についてはすでに故人となっており、在りし日の事を懐かしく想いかえしながら編集にあたらせていただきました。

*一羊園だより、一羊会だよりでは個人名が出てきますが、当時の原文のままの表記ですので関係の皆様にはご理解、ご了承の程よろしくお願い致します。

*編集の都合上、数字の表記の仕方などが原文と異なる場合があります。また、今では差別的な表現ととらえられる可能性のある表現もありますが、あえて当時のままの言葉で掲載しています。

企画構成：久保廣高（ジョイント） レイアウト：岡伸光（一羊園） 写真：神田浩平（ジョイント） 監修：三浦昇（理事長） 高木博敏（部長）

一羊園だより 創刊号(1976年5月)～第43号(1987年7月)

■創刊号の巻頭を飾ったのは、当時の西宮市長の寄稿文です。一羊園はまだ建築中で、文章の中で、十日戎の「えびすうどん」の販売、バザー、街頭募金と建設資金作りに努力を続けてきた西宮手をつなぐ親の会(現育成会)とその熱意に賛同し協力してくれた多くの善意に敬意を表して下さっています。そして、長久清初代一羊会理事長(一羊園設立委員長)が創刊の辞と題して以下の文章を寄稿しています。

「創刊の辞」 一羊園設立委員長 長久清

一羊園の建設は、西宮手をつなぐ親の会の多年に亘る宿題であって、このため会員一同は、資金づくりに涙ぐましい努力をしてきました。これに対して深い理解と強い協力が各方面より寄せられ、いよいよ施設実現の日を見ることがま近になりました。(中略)この願望をこめて「一羊園だより」を発刊することになりました。ただいまのところでは、季刊とするつもりです。

創刊号(1976年1月25日)

■そして、ついに念願の一羊園が設立されました。開園当時西宮市手をつなぐ親の会会長で初代すずかけ作業所所長の杉本常夫さんがその思いを綴っています。

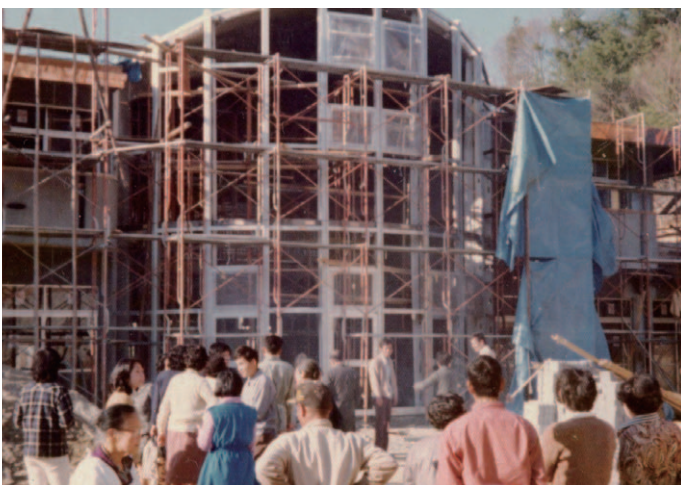
「一羊園に灯がついて」

西宮市手をつなぐ親の会会長 杉本常夫

西宮市山口町船坂に、新しく福祉の灯がともりました。その名は「一羊園」昭和52年5月31日、この日こそ我が生涯を通じて最良の日となるでしょう。

西宮市手をつなぐ親の会にとっては、実に長く険しい7年余の歳月でした。でも今は唯、一羊園建設に当って御尽力いただいた、多くの方々に対して感謝の気持ちで、いっぱいです。今後は一羊園と云う名の灯を消す事のないうように守ってゆく事が、親の会の務であり、御協力して下さいました人々への、報恩の道かとも存じます。

第5号(1977年5月31日)



(1976年開所直前入所説明会)

■西宮市長を歴任し、開園当時は大谷記念美術館館長でもあった辰馬龍雄氏は、一羊会の設立から発展に多大な貢献をして下さった方です。一羊園設立に際して一羊園福祉社会会長として寄稿して下さいます。

「わたしたちの念願」 一羊園福祉社会会長 辰馬龍雄

一羊園では、緑の山にとり囲まれた美しい自然の中で、農耕、木工、竹細工、製袋などの作業をしながら、楽しく、明るく活気にあふれた生活が、毎日行なわれています。また一方では、なるべく社会の空気に触れる機会をあたえるため、街の催しに参加したり、園の催しに街の人を迎えたりして、社会との交流がはかられています。また園生たちによるお宮さんや墓地の掃除の奉仕なども行っています。機会がありましたら、ぜひ一羊園をご訪問くださって、ここの生活振りをごらんください。

第16号(1980年3月25日)

■開園当時の松田修之指導主任は一羊園の1～2年目を振り返って次のような文章を書いています。

「一羊園の歩み」 指導主任 松田修之

○昭和52年度

研修と農地開墾に明け暮れた20名の新職員が、両手を広げて31名の入園者を迎えた、5月11日。多年にわたって運動を推進された、西宮市手をつなぐ親の会の皆さんが、そっと涙を拭いた、5月31日の開園式。一生忘れ得ぬであろう。あの甘美な感動とは裏腹に、連日、問題山積の嵐のような一羊園の出発であった。ほとんどの園生は、比較的早く新生活に溶け込めたが、一部園生による生活の混乱、諸整備の不備、水の枯渇…。そんな中、生活の充実を図るため、指導員は、職業指導を体験できるよう、体ごとぶつかり合う農耕班、機械の安全設定、工具の工夫に努める木工班、雑巾縫いから始まった女子作業班。7月園生全員に支給された初の給料は、微禄ではあるが、彼等に大きな自信と勇気を与えたことだろう。機能訓練班も、歩行障害の回復の徐々に成果を上げ始めた。また、プール遊びや花火大会等、多くの行事が催され、多くの者にとって、うれしい初体験をした1年でもあった。一方、当初よりの山口町青年団との交流、地域合同盆踊り、11月より青年生活学級参加等、地域交流にも着手した。

○昭和53年度

当年はコミュニティケア躍進の年であった。ボランティアグループの主体的活動推進と、園生の余暇の充実をめざした日曜学校の開校。地域の神社、墓等の園生による清掃奉仕作業。他施設とのスポーツ交流や、7月から始めた特別養護老人ホーム「大池サンホーム」との音楽交流。盆踊りには、山口町連合婦人会の皆様の指導による、山口町伝統の「扇踊り」をとりいれたり、地域誌「チキチキバンバン」の発行等の活動により、多くの地域の方々の理解を得ることができた。

職業指導では、ビニールの再生、製袋作業が加わり活性化すると共に、生活面でもロッカー整理の徹底等、充実が見られた。

第17号(1980年5月10日)



(1977年 余暇活動 音楽)

■当時一羊園では就職を目指した実習をしていました。

「実習スタート」

山口町近辺のいくつかの工場を見学するにあたり、「社会人としての自覚」を目標に園生8名で“ダルマの会”を発足させました。

その中では、挨拶、言葉使いを始め職場内での人間関係の話など幅広い話し合いが進められ、そんな中で園生自身の自覚もかなり出てきた様に思われます。

職員も実習推進委員会を中心に、見学させて頂いた会社と連絡を取り、現在二つの会社の実習のお世話になっています。(中略)

このように、多くの人の御協力、御援助によって4名の園生が実習させてもらっているわけですが、私達は彼等が「りっぱな社会人」となれるよう、より一層の努力が必要となったと感じます。

第20号(1981年3月10日)

■また、梱包会社の課長さんからも寄稿がありました。

一羊園から「浜ちゃん」の愛称で呼ばれる実習生が我々と共に包装の仕事に励んでいる。人なつこく心やさしい性格、純真で一途に仕事に打ち込む姿を周りの人達は暖かい目で見守っている。これまで私もこの様な施設に関する知識、ハンディを持つ人達への理解に乏しかったが、彼から逆に教えられ考えさせられる点が数々ある。彼等への生活指導教育にたずさわる職員、若いボランティア活動の方々の努力、苦労が着実にみものっている事が伺い知れ私は心より敬意を表します。

第22号(1981年9月15日)

■1981年当時の松浦万里子西宮市手をつなぐ親の会会長へのインタビュー記事がありました。一部抜粋します。

「あの人に聞く」

西宮市手をつなぐ親の会会長松浦万里子さんをたずねて

Q. さっそくですが、親の会は一羊園建設のため、長年苦勞されてきた訳ですが、その一羊園に望むことは？

A. 長年私達は自分達の手で施設をつくるのが夢でした。あの当時施設も少なかったし、いろんな制約があつて、自分たちがいなくなった後の子供の事を思うと不安でしょうがなかった。そこでなんとかしようと思つたつて7年、ほんとうに苦しかったけれども皆で協力しあつてやっと今の一羊園が出来ました。その一羊園は私達のほこりであり、希望なのです。

第22号(1981年9月15日)

■「一羊園だより」には利用者の作文も多く掲載されていました。その中からひとつ紹介します。

園生の作文「一羊園の運動会」 今中 一貴

10月14日日曜日、10時からはじまりました。体操でぼくはまえにでてやって、とてもうれしかった。かけあしで3位になりました。みんなは1しゅうなのに、ぼくたち4人は2しゅうでした。しょうがいぶつぎょうそうでは、とびばこ、ふうせんわり、まんじゅうたべ、とんねるくぐりなどいろいろしました。紅白組のレースで先生たちと園生とはしりました。白組が勝ちました。ぼくは白組でした。たいへんたのしい運動会でした。

第34号(1985年2月20日)



(1977年 一羊園 運動会)

■「一羊園だより」最終号(43号)では、1987年5月9日に、一羊園10周年、すずかけ作業所3周年を祝う記念式典の様子が記事になっています。この年に、一羊園福祉会を発展的に改称して一羊会後援会になりました。

一羊会だより 創刊号(1987年11月)~2号(1988年2月)

■「一羊会だより」の創刊号は1987年11月17日に発行されました。題字は辰馬龍雄氏です。この題字は今でも使用され続けています。一羊園福祉会から引き続き重責を担っていただいた辰馬龍雄一羊会後援会初代会長として寄稿していただきました。

「一羊会後援会の発足にあたり」

一羊会後援会会長 辰馬龍雄

知恵おくれの成人施設、一羊園が緑多い市内山口町の一隅に設立されてから10年の歳月が流れ去りました。この間、一羊園福祉会は一羊園の後援会的役割を担い年額500万円のご援助を目指して活動を展開して参りました。

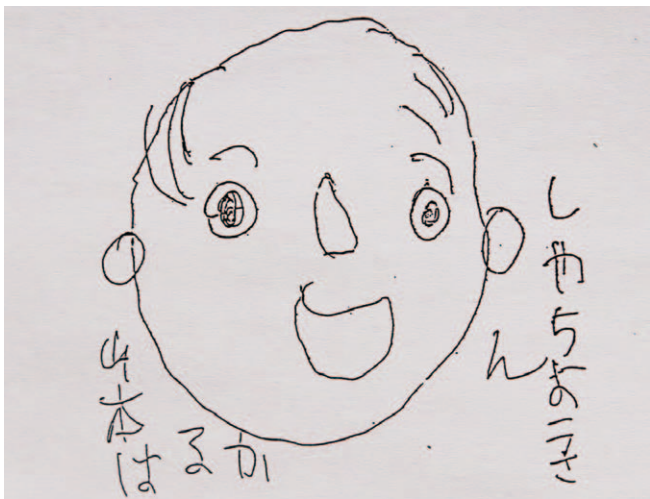
ご承知の通り設立者、社会福祉法人一羊会には一羊園とは別に通所授産施設「すずかけ作業所」があります。この春法内化3周年を迎えました。これを契機に「すずかけ作業所」に対しても援助協力を行うこととなり、理事会の議を経て「一羊園福祉会」を「一羊会後援会」と発展的に改称することとなりました。

10年を経過した一羊園の現状を見ると、社会福祉法人一羊会関係の皆さんの献身的な援助、手をつなぐ親の会、父兄、保護者、法人、心ある個人の方々の格別のご援助を積み重ね、県市の補助等により、定員50名の一羊園の通常経費は補助金等によりどうにか賄えられまずまず順調に推移して来ました。

■「一羊会だより」創刊号には、杉本常夫初代すずかけ作業所所長、三浦昇指導主任と高木博敏すずかけ労働センター所長が寄稿しています。

「私のねがい」 前すずかけ作業所所長 杉本常夫

今までの一羊園だよりが、この号から一羊会だよりと名を改めて、社会福祉法人一羊会が運営する、三つの施設(一羊園・すずかけ作業所・すずかけ労働センター)と、その施設経営をバックアップする一羊会後援会の情報を、併せて刊行されることになり、心から喜んでいる者の一人です。(中略)



(山本はるかさんの「しんちやうさんのえ」)

一羊会だよりは、その法人の機関紙であり、機関紙の果たす役割は、法人の内容や将来構想を、又各施設の実情や将来展望を各方面の人びとに知っていただく便りだと私は理解しています。そのように法人や施設の様子を知っていただく機関紙であれば、その機関紙は真実が伝えられなければ意味がありません。この基本を忘れずますます内容の充実を図り、より良き理解者の一人でも多くなりますよう期待致します。

「杉本所長のこと」 すずかけ作業所所長代理 三浦昇

私と杉本所長とは、私がまだ学生ボランティアだった頃からのつながりでしたが一羊園ができた後、すずかけ作業所の前身である西宮すずかけ共同作業所を学校卒業後の行き場のない人達を受けていく場として一緒にやらないかと誘われたのがきっかけで、当時、杉本所長の熱いものを感じこの人を信じついでいこうと思ったものでした。(中略)福祉を推進していくのは一人一人の姿勢であり、それが一つになった時大きな力となり得る、こんな当たり前のことを実践する事の難しい中、杉本所長がこの大きな推進力となってくれた事を顧みる時、一人の親であり、一人の職員であり、又一人の人間としての杉本所長の在りかた、まさに福祉に関わる者の姿勢を教訓として残してくれた、自分がやらにゃ誰がするんやという主体的に取り組む事の大切さを残してくれたはずです。



(1980年代 すずかけ共同作業所 石在町玄関)

「『すずかけ労働センター』って何？」 所長 高木博敏

すずかけ労働センターは、西宮の知恵遅れの仲間達の進路と発達の保障をめざして運動をすすめてきた、手をつなぐ親の会の一番新しい産物、いわば末っ子です。発足は昭和62年7月、場所はすずかけ作業所玄関前のテントの中、従業員は私を含めて3名です。3名とも作業所の元職員、所員です。

現在の場所は、愛宕山の旧寿園内の一部を使わせてもらっています。公共の建物ですので使用許可がおりるまでは時間がかかりました。親の会の熱意を受け、障害福祉課の慎重ながら粘り強い努力が実りました。(中略)

労働センターは事業所としての独立採算を目指す無認可の施設です。従業員諸君は朝8時に待ち合わせ、夜7時頃別れるまで、主に再生自転車づくりに汗と油にまみれて働きます。認可された施設のような豊かな処遇はできませんが、私達は共に働く仲間として、つらいけど、しんどいけど、汚れるけど、「働くってたのしいな、働く仲間がいるってすばらしいな」と共感し合える場を目指したいです。共に働くといっても、経済的な自立をしていかななくてはきれい事を言うだけのごまかしで終わってしまいます。自らに厳しく前進する覚悟です。

■第2号からも高木部長の労働センターの記事を一部抜粋します。

「なんでもやってみます。おしごとください」

すずかけ労働センター所長 高木博敏

さて、63年度は職員2名、従業員8名規模で計画中で、運営費は作業収益プラス親の会から一羊会への助成金でまかなっていきます。作業内容は、市内の公園清掃と自転車リサイクル、その他なんでも請負業です。家の庭や空地の除草、そうじ全般やらせて下さい。只今大阪方面でビルの床洗い修行中です。鉄関係の溶接及び加工、簡単な大工仕事、ペンキ塗りもやっています。

第2号(1988年2月23日)



(1979年 すずかけ共同作業所 オリオン製菓内職作業)

■ここで、開設当時のすずかけ作業所各作業班の紹介文を見てみましょう！

ーオリオン班ー

オリオン班ってステキな名前でしょう？もうかれこれ10年余り。オリオン製菓株式会社から仕事をいただいて、お菓子の袋詰めをしています。それで「オリオン班」なのです。他に、玩具紙幣の内職や、公園清掃等の仕事も頑張っています。

オリオン班は、所員13名、職員4名の大所帯。みんな、いきいき、こんなににぎやか…

○月×日

本日の仕事は、オリオンのカバンセット。歌の大好きな鎌足牧夫君は鼻歌まじりにヒョイヒョイツとお菓子を

入れ、お隣へハイッ。「ラムネを出して。」の声に、素早く、ドサーッ！と机の上いっぱい広げ、ヤッタ！と満足顔の河合渡君。山口宏宜君は、「車買う。掃除機買う。」とお給料を楽しみに頑張っています。

休憩タイム。上山陽子さんは、くつ下脱がせが大好き。まあい目を輝かせて、くつ下をねらってきます。その力の強いこと、強いこと。

11時になると、さっと仕事を始める藤本和也君。見学のの人にも「こんにちは。」とステキな笑顔で迎えてくれます。仕上げのシール渡しは森本あけみさんの仕事。「ハイッ！」と元気な声。たくさんできたね。

○月△日

水曜日の午後は、生活指導。今日は外で運動しよう。たこたこあがれ、天まであがれ！手作りたこを操るのに一生懸命の山本紀子さん。走れ走れ！酒井佳子さんの笑顔は百万ドル。ホラ、あがったね。藤田竜一君は、追いかけてっこが大好き。ニコニコ、グラウンド中を逃げまわります。

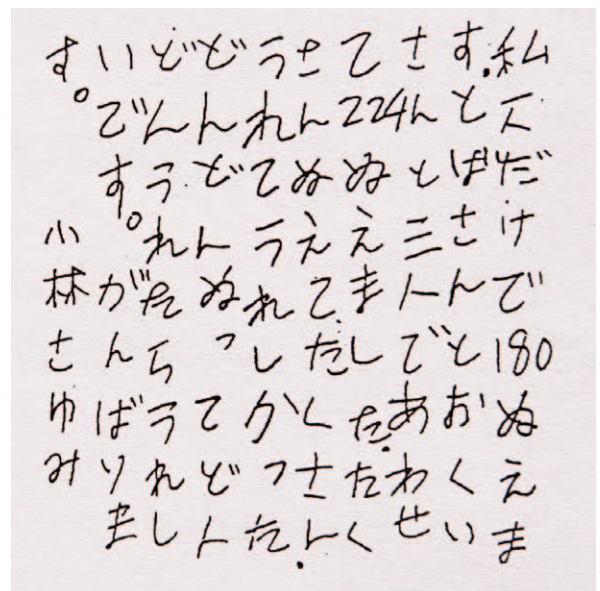
さてこちらは、サッカーに夢中。車イスの山岡信君、全身に力を込めて、エイッ！アララ、ずり落ちそう…

松浦啓二君がボールを追います。「こっち、こっちー！」啓ちゃんの額に汗がキラリ。岸本裕之君も外が大好き。フフフッととても楽しそうな笑い声が響きます。

のどが乾いたので、ちょっと一服。古山美津子さんは、もちろんコーヒー。この次は、みっちゃんの大好きなカラオケをしようかな。

オリオンの名にふさわしく、たくましく、いつもキラキラ輝いている笑顔いっぱいの班でありたいと思います。どうぞ、よろしく!!

第2号(1988年2月23日)



(小林さゆみさんの作文)

■いかがでしたでしょうか。「一羊園だより」の1号から43号までと「一羊会だより」の1号、2号の記事から抜粋して振り返ってみました。この企画まだまだ続きますので、ご期待ください。

ご報告

実践結果発表 2017

部長 高木博敏

第9回実践発表会を下記の通り実施いたしました。

日時：2017年11月28日（火）10：00～11：45

場所：西宮市勤労会館 ホール

来場者：一般26名／利用者家族、関係者63名／合計89名



終了後、アンケートに熱心に御記載いただきありがとうございました。

貴重なご感想、ご意見を、来年度の企画の参考にさせていただきます。

以下、その内容を抜粋で紹介いたします。

報告発表

「フェリシモ猫部と西宮市の取り組み」武庫川すずかけ作業所

- 作業所の取り組みが、企業、行政、マスメディア等の様々な機関と繋がっていたことに、驚きました。
- 一羊会が、プロジェクトに参加して勉強になったとの事。その知識・経験をすずかけクッキー作りに活かしてほしい。多種の詰め合わせを発案する、パッケージに工夫する、多種の要望に応えられる柔軟な頭で対応が必要ではないでしょうか。
- フェリシモ関連の商品販売の話は知らなかったので、教えていただいていたらガーデンズに買いに行きたかったです。残念！もっと身近なところから宣伝して欲しい。

実績発表 1

「地域とのつながり」

すずかけ作業所

- ワークショップを通じて地域交流し、利用者さんの姿を知ってもらい取り組みが良いです。
- ワークショップで色々なことを試して、世間のニーズに合った物作りを発見し、作業所で取り組めるシステムはいいですね。私も是非参加したいと思いました。
- ワークショップに参加することをいつも楽しみにしています。去年作ったコケ玉が今もとても大きくなりました。
- つながりを作るには努力と工夫、継続が大切ですね。
- 地域の方々とのつながりが温かく、これからもこのようなおつき合いが続き、もっとたくさんの方とつながればいいなあと思います。
- 地域とつながるための工夫がよくわかりました。ひとつひとつのイベント等の中で何らかの結果を見だし、それをまた次につないでいる。そのような流れが見えました。
- 地域の人達に知って頂きたい理解して頂きたいという職員の方々の熱意が伝わり、嬉しく思いました。

実績発表 2

「プロGRESS～無限の可能性～作業の充実と工賃アップ」

上甲子園すずかけ作業所

- 動画を効果的に活用し、わかりやすかったです。挑戦する大切さも伝わり共感しました。
- 丁寧な仕事ぶりが伝わり、単に働く場所ではなく、個人の成長を考え試行錯誤しながらサポートしていただけるのがよくわかりました。
- わかりやすい説明でした。段階をふんでステップアップし、工賃アップにつなげていくことを嬉しく感じました。工賃の使い方の支援が参考になりました。
- K君の成長がすばらしい。K君の可能性を信じている職員に出会えたからだろう。重度の利用者に対しても、来年は今とちがうと信じて接してくれる職員に出会えたら本人も幸せだ。
- K君が少しずつ進歩し成長していく過程がよくわかった。すばらしいと思う。
- 自然に寄りそった支援方法がうれしかったです。Kさん、頑張ってくださいね。
- 機械を使ってまき割りをしている姿に驚きました。とてもうらやましく思いました。手を切らない様にと願っています。
- 利用者さんが成長できるよう、支援されているのがすばらしいです。我が子もこのような職員さんとお会いしたいです。

実績発表 3

「WHY WE WORK わたしが、仕事を続けるわけ」

一羊会昭和の仲間たち

- 法人の歴史、理念、思いに触れることができ、また、古くなったなつかしい面々が見れて良かったです。みんな、頑張れ!!
- 70歳を過ぎても働く意欲を持ち続けられることが素晴らしいです。ご本人の頑張りだけでなく、支援者との連携ができていくことは、私たち親にとってかなり安心です。職員と利用者という壁がなく、人と人のつながりを大切にしてきた所が素晴らしい。
- 本人が、自分の働いてきたことを聴衆の前で話す機会になりとても良かったです。改めて、しょうがいがあっても「働く」ということを考えるきっかけになりました。
- いつもの実践発表とは違ったけど、本人の生の言葉が聞けてとてもよい企画でした
- 「持ちつ持たれつ…」という最初の言葉が印象的でした。利用者さん、最高ですね。仕事を続ける理由、皆さん真面目で一生懸命ですね。我が子はまだ若いですが将来を考えるよいきっかけになりました。
- この企画は当事者の方たちのエンパワメントにつながると思う。職員とのかけあいも楽しく、日頃の両者の良い関係が伝わってきて感動しました。三浦さん（理事長）歴史を感じますね。

この実践発表会は、10年前に法人の「法人改革推進プロジェクト」の実行に大きなご尽力とご指導をいただいたアドバイザー上田晴男さんの提案で始めました。

開催目的は、

- 日頃は職場でスーツなど着用したことのない現場の支援員に、大きなホールの聴衆の前で、支援実践内容を発表する機会を与え、モチベーションの向上に繋げること。
- パンフレットを見ればわかるようにただの法人事業の紹介では意味がなく、また支援の成功結果をカッコよく報告することが目的ではない。個別支援計画に沿って実践している日々のこつこつとした地味な支援内容を、関係者や地域の方に知っていただくこと。

来年度もこの目的からぶれないような発表を継続したいと思っております。時期は未定ですが、ご案内がお手元に届きましたらどうぞご来場くださいませ。

ありがとうございました

助成の紹介

● ジョイントホーム事業課 ●

ジョイントホーム事業課では、公益財団法人 神戸やまぶき財団様より社会福祉助成金を2017年7月にいただきました。消防法で必要なスプリンクラーの設置に充てさせていただきました。



写真はわくわくホーム



● すずかけ作業所 ●

一般財団法人 高友福祉積善会様より福祉助成金を頂き、「お湯いらず 岩盤足浴 新・足の助」・「フィットネストラップリン」・「クレイジーフィットマッサージ (ブルブル振動マシン)」・「ビーダブルエス (ルームサイクルオリンピア)」を購入させていただきました。利用者の健康支援に今後も努めていきます。



● 一羊園 ●

一般財団法人 高友福祉積善会様の助成金により、食器洗い乾燥機、床拭きロボット、歩行器を購入させていただきました。



法人・事業所御寄付の報告 (敬称略・順不同)

2017年8月1日～2017年12月31日

*法人

板見英樹 はやなか合同

2件

*一羊園

一羊園家族会 一般財団法人 高友福祉積善会

2件

*すずかけ作業所

すずかけ作業所保護者会 池田町住宅管理委員会 コープこうべ甲子園口コープ委員会

一般財団法人 高友福祉積善会 匿名3名

7件

*すずかけ労働センター

南野道明 すずかけ労働センター保護者会 神田三代子 池田邦子

4件

*すずかけ第2作業所

コープこうべ西宮マリナパーク委員会様

1件

*武庫川すずかけ作業所

西宮マイスターライオンズクラブ 公益財団法人 鳴尾会 匿名3件

5件

*ジョイント

豆柄和利 匿名1名

2件

*上甲子園すずかけ作業所

上甲子園すずかけ作業所保護者会

1件

一羊会後援会会費 (敬称略・順不同)

2017 (平成29) 年度会費

*法人団体の部

一般財団法人 高友福祉積善会 株式会社 新井組 株式会社 前中地所 株式会社 メックテクニカ 株式会社 岡崎石材店
関西学院中等部生徒一同 平田建築設計株式会社 社会保険労務士法人 溝口社会保険労務士事務所 日高歯科医院
日本キリスト教団 芦屋山手教会ナルド会 すずかけ作業所保護者会 YOU、ゆう高木婦人会 神姫産業株式会社
すずかけ第2作業所保護者会 すずかけ労働センター保護者会 西宮市民踊協会 一般社団法人 西宮市薬剤師会
甲南防災設備株式会社 大喜建設株式会社 甲山大師 神呪寺 一般社団法人 西宮市歯科医師会 武庫川すずかけ作業所保護者会
株式会社ヤマムラ 大関エステート株式会社 株式会社 巨勢工務店 宗教法人 日本キリスト教団 西宮教会
株式会社 創功エンジニアリング 一羊園家族会

28件

*個人の部

上谷幸代 松田達 前川拓郎 大目修平 井上尚子 馬場光子 山岡敬子 橋本真理 匿名1名 小椋朝夫 長部文治郎 大西勝代
片山寛子 大前繁雄 鈴木侑 黒田輝子 千翔有峰 藪田君子 松岡令子 久保恵津子 西中薫子 麻生史子 中村栄子 今津八代生
中谷美津子 舩次和子 田中ふみゑ 高士文緒 川上隆弘 吉野千栄子 本田洋子 宮脇葉子 近藤真由美 車田光子 岡村英幸
北川泰寿 大前はるよ 齊藤正市 松本憲和 光武真里 伊藤節子 藤井圭子 飯森隆年 小川加代子 山本加津美 高木説子
吉田幾久世 松枝千尋 堀江史子 深見秀敏 宮川達 佐竹基宏 吉田高 清水彩里 四方勝 谷田松子 安田文彦 栗原裕実
横田大輝 齊藤啓史 日高昭夫 緒方満智 森田順 長谷隆行 田中京子 谷矢吉夫 西田智子 善塔勝一郎 横山潤 横山正代
山本富子 山本圭吾 浜田良子 高林恵子 八木春作 久保田晴子 唐沢文子 篠原正寛 大村貞明 佐々木康晴 南野道明 岩井久美子
高谷知子 福田百合子 後村喜美代 奥嶋育子 柴田タツミ 西野史子 早川典江 藤田信子 松井眞澄

91件

一羊会後援会御寄付 (敬称略・順不同)

2017 (平成29) 年度御寄付

*法人団体の部

学校法人 名古屋学院 関西学院中等部生徒一同 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会 はやなか合同
社会保険労務士法人 溝口社会保険労務士事務所 西宮市民踊協会 サンコウ消毒 西宮浜産業地協議会
労働センター保護者有志 トータルマナー株式会社 株式会社 小山 税理士法人 丸岡&パートナーズ 上野神社
夙川学院 宗教部 関西学院教会 婦人会 株式会社 創功エンジニアリング 夙川東教会 さくら会 日本基督教団 関西学院教会

18件

*個人の部

前川拓郎 大目修平 馬場光子 山岡敬子 水田義一 小椋朝夫 大西勝代 片山寛子 黒田輝子 小池佳子 高士文緒 宮崎直美
本田洋子 宮脇葉子 近藤真由美 匿名1名 小林義典 寺尾郁子 中谷美津子 小川加代子 森岡宏夫 神保道禪 吉田幾久世 太田博
高瀬直子 長谷隆行 小田原和子 谷矢吉夫 山口静枝 善塔勝一郎 大前繁雄 青木純子 山本圭吾 田村明範 是常孝男 重久隆
久保田晴子 唐沢文子 大村貞明 万竝建二 佐々木康晴 齊藤正市 黒木真弓 南野道明 中田智恵海 上中法子 高谷知子 下浦洋子
八島満紀子 藤本政潔 田中幸二

51件

*2018年1月9日~11日の西宮十日戎募金において

318,544円の募金をいただきました。ありがとうございました。

口座名義 一羊会後援会

【銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061

【郵便振替口座】01190-8-66322

展覧会情報

その2 2018.2.21 WED - 3.5 MON 11:00 - 18:00 (★2/21 WED 20:00) Close SUNDAY
★期間中、下記の日時に外次券が会場に滞在します。 27日 13:00-15:30
舩さん滞在時に合わせて、出張カフェもオープン! APtime CAFEのコーヒー(すずかけクッキー付)

〒662-0915 西宮市馬場町 4-17 TEL/FAX 0798-31-1043

一羊会ホームページをリニューアルしました是非ご覧ください

●編集後記●

西宮十日戎での募金活動や販売について、無事終わることができました。1月下旬には一部の作業所でインフルエンザが流行するなど、今年は特に寒さも厳しく、また長く感じた冬となりました。早く暖かい春が待ち遠しく感じます。

さて100号特集ですが、実は今号の“一羊会だより”のみで全てを掲載予定でした。しかし作業をすすめるうちに、さすがに“一羊園だより”からの歴史の長さ、深さを改めて認識し、複数回に分けての特集との判断に至りました。次回も一羊会の歴史を知っていただければと思います。